

## 平成 28 年度 学校評価に関わるアンケート集計結果

平成 29 年 3 月 21 日

宮城県中新田高等学校

### 1 アンケート調査期日と回収率

対象者	実施日	回収率
生徒	12月 2日 (金) 8:40～	98% (315 / 321人中)
保護者	11月 21日 (月)～12月 2日 (金)	87% (278 / 321人中)
教職員	11月 21日 (月)～12月 2日 (金)	100% ( 27 / 27人中)

### 2 結果詳細

＜資料 1＞平成 28 年度 学校評価アンケートの実現度グラフ (生徒・保護者・教職員)

＜資料 2＞平成 28 年度「重要度」「実現度」「ニーズ度」一覧 (生徒・保護者・教職員)

### 3 共通項目 結果一覧 ( 実現度 )

(数字は肯定的評価の値 単位 %)

	項目	生徒		保護者		教職員	
		H27	H28	H27	H28	H27	H28
1	進路に応じた教育課程編成	85	77	86	78	83	89
2	意欲を引き出す授業	73	57	75	67	83	78
3	家庭学習の定着	32	19	41	37	50	41
4	充実した朝読書の推進	79	76	72	63	85	89
5	生活指導の方針明確	81	67	81	71	94	85
6	基本的生活習慣の指導	84	76	85	71	91	85
7	進路目標の明確化	81	71	78	69	92	89
8	進路情報の提供	82	69	73	62	82	74
9	進路ノートの活用	64	68	71	56	53	33
10	教育相談体制	81	73	72	62	95	89
11	部活動が活発	84	73	79	67	67	68
12	部活動の休養日設定	74	73	79	65	71	63
13	生徒会活動が活発	78	70	81	74	71	78
14	有意義な学校行事	82	63	84	71	100	93
15	特色ある学校づくり	75	67	76	72	86	81
16	災害時の避難・連絡	88	77	85	73	97	93
17	学校の情報提供	88	76	77	66	100	93
18	PTA・学校行事の連絡	79	66	65	58	59	48
19	校舎等の施設設備	61	58	70	64	59	85
20	清掃等学習しやすい環境	85	70	83	75	88	74
21	いじめの早期発見	75	57	78	61	97	89
22	学校生活の充実度	78	62	84	71		
	平均	76.8	66.6	76.1	66.0	81.1	77.7

## 4 共通項目概況

今年度の学校評価に関するアンケートは、昨年度と同じ項目で実施した。具体的項目での昨年度と今年度の経年比較を実施した。

### (1) 生徒アンケート

肯定的評価の平均は66.6%（前年比－10.2ポイント）と全体的に評価が低くなっている。それに対し前年度1～2%だった無回答の割合が平均10.2%と増大した。そのため肯定的評価が80%以上の項目は、0（昨年比－11）となった。

その中で「進路に応じた教育課程の編成」、「充実した朝読書の推進」、「基本的生活習慣の指導」、「災害時の避難・連絡」、「学校の情報提供」の5項目が肯定的評価75%を超えている。

また、肯定的評価が65%未満は6項目（前年比±0）であり、そのうち60%未満は、「意欲を引き出す授業」「家庭学習の定着」、「校舎等の施設設備」「いじめの早期発見」であり、中でも「家庭学習の定着」の評価が19%と昨年同様に極端に低い評価となった。（H23は16、H24は19、H25は27、H27は32とポイントの漸増は見られていたが...）

なお、前年度と比べて大きく変動した項目は、「有意義な学校行事」（－19）、「いじめの早期発見」（－18）、「意欲を引き出す授業」（－16）、「学校生活の充実度」（－16）であった。

### (2) 保護者アンケート

肯定的評価の平均は66.0%（前年比－10.1ポイント）と大きく数値が下がっている。それに対し前年度2～3%だった無回答の割合が平均12.3%と増大した。そのため肯定的評価が80%以上の項目は0（前年比－8）となった。75%を超えた項目は「進路に応じた教育課程の編成」、「清掃等学習しやすい環境」の2項目であった。

また、肯定的評価が65%未満は8項目であり、そのうち60%未満は「家庭学習の定着」「進路ノートの活用」「PTA・学校行事の連絡」であり、特に「家庭学習の定着」の評価が37%と生徒アンケートと同様に低い評価となった。

なお、前年度と比べて大きく変動した項目は、「いじめの早期発見」（－17）、「進路ノートの活用」（－15）、「基本的生活習慣の指導」（－14）「部活動の休養日設定」（－14）であった。

### (3) 教職員アンケート

肯定的評価の平均は77.7%（前年比－3.4ポイント）であった。肯定的評価が80%以上の項目は、21項目中12項目（前年比－2）であった。その中でも「進路に応じた教育課程編成」「充実した朝読書の推進」、「生活指導の方針明確」、「基本的生活習慣の指導」、「進路目標の明確化」、「教育相談体制」、「有意義な学校行事」、「災害時の避難・連絡」、「学校に情報提供」、「校舎等の施設設備」、「いじめの早期発見」の11項目が85%を超えた。

また、肯定的評価が70%未満の項目は、5項目（前年比±0）であり、その中でも60%未満は「家庭学習の定着」、「進路ノートの活用」、「PTA・学校行事の連絡」である。評価項目中「家庭学習の定着」と「進路ノートの活用」が特に低い評価となった。

なお、前年度と比べ特に大きな変動があった項目で、「校舎等の施設設備」が23ポイント上昇した。また、反対に10ポイント以上マイナスに転じた項目は、「進路ノートの活用」が（－20）、「清掃等学習しやすい環境」が（－14）「PTA・学校行事の連絡」が（－11）「家庭学習の定着」が（－9）であった。

## 5 ニーズ度算出からのまとめ

### (1) アンケートの実施について

今年度のアンケートも、昨年同様にそれぞれの項目に対して実現度だけでなく重要度も回答してもらった。重要度と実現度に関してはアンケート結果に対して次のような点数化を行い、各項目の「重要度」「実現度」「ニーズ度」を算出した。

重要度	重要である	やや重要である	あまり重要でない	重要でない
点数	7	5	3	1

点数の和 ÷ 有効回答数 = 重要度

実現度	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
点数	7	5	3	1

点数の和 ÷ 有効回答数 = 実現度      重要度 × ( 8 - 実現度 ) = ニーズ度

「ニーズ度」は、重要度が高くて実現度が低いと高くなる。**「ニーズ度」が高い項目は、学校の課題と見なすことが出来る。**

### (2) 「生徒」「保護者」「教職員」アンケートの三者比較概要 ※ ( ) 内は27年度の値

	重要度平均値	実現度平均値	ニーズ度平均値
生徒	5.30 (6.01)	4.28 (4.98)	19.66 (18.13)
保護者	5.35 (6.11)	4.21 (4.88)	20.28 (19.01)
教職員	5.91 (6.22)	4.75 (5.10)	19.09 (18.00)

上記の表から、今年度のアンケート結果を見ると、生徒と保護者・教職員による重要度・実現度・ニーズ度の平均値がほぼ同程度であるが、それぞれ重要度・実現度の平均値が若干減少し、ニーズ度が若干上昇した。今回のアンケート結果から、三者のニーズ度の数値の高い項目から課題の割り出しを試みた。

### (3) 「ニーズ度」から見た注意すべき項目(上位7項目)

<生徒>		質問項目	重要度	実現度	ニーズ度	
					28年度	27年度
3		私は、毎日、予習・復習等の家庭学習に取り組んでいる。	5.16	2.60	27.86	26.68
2		学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	5.70	3.93	23.20	20.93
21		学校は、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。	5.28	3.75	22.44	19.44
19		校舎やグラウンドなどの施設や設備は整理されている。	5.11	3.77	21.65	22.64
14		有意義な学校行事がある。	5.48	4.13	21.22	17.45
1		本校では、生徒の進路希望に応じた教育課程が編成されている。	6.04	4.59	20.61	18.03
8		進路希望に応じて、必要な進路情報の提供は適切に行われている。	5.66	4.43	20.23	17.51
全平均			5.30	4.28	19.66	18.13

<保護者>		質問項目	重要度	実現度	ニーズ度	
					28年度	27年度
3		お子さんは、毎日、家庭学習に取り組んでいる。	5.58	3.41	25.61	26.34
21		学校は、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。	5.54	3.82	23.17	20.24
8		進路希望に応じた必要な進路情報の提供は適切に行われている。	5.71	4.05	22.53	20.91
2		学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	5.74	4.17	22.01	21.26
9		「進路ノート」を活用しLHRや総合の時間を使って効果的な進路指導が行われている。	5.24	3.88	21.62	20.29
10		教員やスクールカウンセラーが必要なときに相談に応じてくれる体制がある。	5.32	3.98	21.38	20.47
18		PTA活動や学校行事などの連絡事項を保護者へいつも伝えている。	5.19	3.93	21.14	20.16
全平均			5.35	4.21	20.28	19.01

(3) 「ニーズ度」から見た注意すべき項目(上位7項目)

ニーズ度

	<教職員>	質問項目	重要度	実現度	ニーズ度	
					28年度	27年度
3		宿題指導の徹底などにより、家庭学習は定着している。	5.78	3.81	24.18	22.47
9		「進路ノート」を活用しLHRや総合の時間を使って効果的な進路指導が行われている。	5.19	3.48	23.43	21.48
11		部活動は活発に行われている。	6.41	4.54	22.20	19.43
2		学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	6.63	4.70	21.85	20.91
6		挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の方針が明確に示されている。	6.70	4.93	20.61	17.75
19		校舎やグラウンドなどの施設や設備は整理されている。	6.30	4.74	20.52	24.82
8		進路希望に応じて、必要な進路情報の提供は適切に行われている。	5.93	4.59	20.19	18.21
		全平均	5.91	4.75	19.09	18.00

・「家庭学習の定着」は昨年・一昨年に引き続き三者ともニーズ度が高い項目であった。学習することの大切さは感じているものの、実際の家庭学習状況はなかなか改善されていない。根強い課題である。家庭学習の習慣を身につけさせるような具体的取り組みを保護者の協力を得ながら進めていかなければならない。

・「学ぶ意欲を引き出す授業」も、三者とも高い値となっている。学ぶ意欲を引き出し、基礎学力の定着、向上につながるわかりやすい授業作りをより一層研究していかなければならない。

・「進路ノートの活用」は、実際に使用している生徒の評価が向上傾向ではあるが、保護者と教職員が大幅に前年比マイナスとなっている。内容の見直しや活用法の研究が課題である。また、「進路情報の提供」についても、三者ともニーズ度が高く、時期に応じにこまめな発信する方法や具体的な提供内容の検討が必要と考える。

・「いじめの早期発見」は、安心した学校生活に欠かせない必要性の高い項目である。今年度も、いじめに関するアンケートを毎月実施し、その内容をもとにいじめが解決した事例もある。努力はしているが三者とも実現度が大きく低下し、ニーズ度が高まっている。このことを真摯に受け止め、早期発見及び防止に向け注意を怠らず取り組んでいきたい。

・「PTA・学校行事の連絡」について、生徒・保護者・教職員とも低い評価でニーズ度が高まっている。一斉メール配信をこまめに行い課題を改善したいと考える。

・昨年課題となっていた「校舎等の施設設備」であるが、4月末にグラウンド整備が完了し、十分に活動できるようになった。ただし「清掃等学習しやすい環境」の評価が低くなっており、教室を含め活動場所の整備や整理整頓が課題となっている。清掃指導等公共道徳を養う指導を工夫していきたい。

## 6 考察

今年度の学校評価に関わるアンケート結果について共通項目結果一覧及びニーズ度算出結果より、本校が問題意識を持って取り組むべき課題は、次の点に集約されると考える。

- 1) 毎日の家庭学習の習慣づけと時間管理の指導を通し、生徒の目標設定に繋げる
- 2) 基礎学力の向上を図り、生徒の学ぶ意欲を引き出す授業の工夫
- 3) 生徒が相談しやすい環境向上といじめ防止の周知徹底
- 4) 「進路ノート」の活用と効果的な進路指導方策及び進路情報等内容・伝達法の工夫
- 5) 挨拶・マナーなど基本的生活習慣の確立及び公共心の育成

## 7 自由述欄より

今年度の自由記述では、「保護者送迎時の駐車や待機について」、「部活動の活性化や男子の部活動数について」、「類型選択の時期について」、「女子の制服デザインについて」、「学校生活の様子を知らせる工夫について」、「悩んでいる生徒の対応」など大変貴重なご意見をいただいた。検討し改善に努めたいと思っている。今後も学校経営上のヒントとなる意見等大いをお願いしたい。